

地質調査所における兵庫県南部地震の対応

平成7年度兵庫県南部地震対策推進本部

1995年1月17日午前5時46分に発生した兵庫県南部地震は、死者・行方不明者が5,400人を上まわるなど、淡路島-阪神地域にきわめて大きな地震災害をもたらした。テレビ等を通じて流される被害の状況は刻々とその深刻さ・重大さを明らかにしていた。地質調査所では地震後直ちに、環境地質部を中心とする地震予知研究担当者が、地震の被害状況の把握に努めるとともに、緊急調査の内容の検討やその実施の準備を進めた。一方、50万分の1活構造図や5万分の1地質図幅の調査結果の再検討を行なうほか、被災地域で地質調査所がいままでに行ってきた研究の成果や所内に所蔵されている各種の文献資料の収集が全所を挙げて始められた。

翌18日には、つくばの本所から淡路島に、また大阪にある近畿・中部地域地質センターからは阪神地区に、地震断層の調査と地震被害調査のために研究者の第一陣が派遣された。また、被災地では電話による通信等が難しい場合があると予想されたので、調査活動の前線での拠点として、近畿・中部地域地質センターに、情報などの中継や調査作業への種々の支援活動を行うよう要請した。以後、地震にともなう地下水変動の調査、地震断層の余効運動の調査、余震観測、斜面災害調査、地盤液状化調査、地下構造調査など、多方面の調査を実施するため、研究者が次々と派遣された。

地質調査所ではこの直下型大地震の実態把握を早急に行い、その結果を今後の災害対策に生かすため、1月20日には所長を本部長とする「平成7年度兵庫県南部地震対策推進本部」を設置した。さらに、具体的な緊急調査の計画・調整および所内外の関係部署との連絡・情報収集の拠点となる組織として、地震地質課長を室長とする「平成7年度兵庫県南部地震対策室」を設け、緊急調査の結果は地震予知連

絡会等を通してすみやかに公表するとともに、所内研究発表会の場を活用して、適宜報告している。また、報道機関にも積極的に情報を提供してきている。

今回の地震では、淡路島の野島断層に沿って約9kmの間、地表に変位が表れた事が確認された。これは関西では1927年の北丹後地震以来のものである。断層の詳細な位置、変位量の分布の調査は、現在も現地で行われている。また、余効変動調査ではこの断層は地震後も変位が増加していることが観測された。野島断層の東側では、地震に伴って湧水が始まったり、湧水量が増加している場所が多数発見され、その湧水量の測定やその化学成分の分析が行われた。また、阪神地区では、既存の活断層には地表に変位が認められないことが確認され、主として地震被害の分布調査が行われた。埋め立て地の地盤液状化の調査や被害集中帯での物理探査法による地下構造調査については、現在解析が進められている。今回の地質ニュースでは、淡路島の地震断層および阪神地区の地震に伴った地すべりについて報告されている。その他の調査結果についても、ある程度のとりまとめが終わった段階で、速報として逐次本誌に発表していく予定である。

今回の地震は、大都市地域に起こる内陸直下型地震の恐さを改めて我々に認識させた。国の地震予知計画の一端を担う地質調査所としても、その責務を改めて痛感するとともに、不幸にして亡くなられた多くの方々のご冥福を心よりお祈りする。被災地の方々のご困難を目のあたりにしながら、現地調査を行うことはまことに心苦しいものである。今回の地震災害の教訓を将来に生かすためにも、できるだけ早期のまた詳細な現地調査が必要であることをご理解いただきたい。